



「やるものではないでしょうか。現在の労竹組合は役員といわれる幹部のものでしかないのに全ての従業員が組合員であり、組合運動をやるかのような幻想の上に成り立っています。幹部は一般組合員の意識の低下をなげき、やる気のあるものも一般組合員がとまどくまで待たされる。待っているうちに組合幹部はいつのまにか会社の幹部になっていく。ぼくたちは待つことをやめた活動家の組織——これが労竹組合なんだと聞か直る。そしてやる。やることは一杯ある。何しろ戦後二十五年間、二十七百万の労働者がやろうとしてやれなかったことをやるのだから……」

「ナニ、オハ回の講座では、ぼくたちが作ろうとする地域労組の旗上げに向けて、その組織、運営について具体案を討論するつもりです。この連続討議の特色は予定されたテーマをどんどんとびこえていくことにある。その保証のかわりではありませんが、こんな組合にするんだということを出しめたいと思います。」

二、三年もすれば、日本には労竹組合といえるものは

「これしかなくなるとのことですから、今まで顔を出したことのなれども一度ぐらい出ておいた方がいいと思います。このバスは見切り発車をいたします。」

#### 読者から

「前略、初めてお便りいたします。藤田若雄先生から「京都労研ニュース」をみせてもらいました。私は東京で約の〇〇に勤務しておりますが、地域は中小企業（むしろ零細）が多く、地域労組結成は私自身の向題として意識しております。昨年ファクトの連中が計画した東部労竹組合2学園に参加したりしてきましたが、残念ながらうまくいきませんでした。」

「南くと二つによると、六月地域労組結成を目指して闘奮斗とのこと。「ニュース」を拝見して、私も目が開かれる思いが致しました。「京都労研ニュース」オハ一号から一部づつお送りいただきたくお願いいたします。」

#### お知らせ

「次回の31日、反戦青年、大久保基地斗争。できるだけ多く参加できるよう期会時刻を六時といたします。よろ承。」

